

大津市立田上中学校・教育学部附属教育実践総合センター 共同研究『地域とともにある教育活動の教育実践』(今井弘樹研究室)

教育学部附属教育実践総合センターでは、地域教育の活性化を推進するため、県・市町教育委員会及び学校園と連携協力して行う共同研究事業の取り組みを支援しています。

令和4年度に取り組まれている33の共同研究のうち、大津市立田上中学校から次のとおり中間報告をいただきました。

- * 共同研究者及び機関: 今井弘樹教授・大津市立田上中学校
- * プロジェクト名: 地域とともにある教育活動の教育実践

令和4年度共同研究『地域とともにある教育活動の教育実践』

大津市立田上中学校

2023年度からのコミュニティ・スクールの開設に向け、今年度は、地域で生徒を育成していくための準備期間です。滋賀大学 今井弘樹先生に「コミュニティ・スクールのしくみ」「コミュニティ・スクールのメリットと魅力」「学校と地域の意識改革の方法」など、これから学校が行っていくべきことのアドバイスや助言を受けて、本校教員の意識改革を進めています。



今年度の取組の一つとして、人と人のつながりを大切にしながら地域を担える人材を地域とともに育むことを目指して、12月3日(土)に、校庭にある『かまどベンチ』を使って、いざという災害時に備えて、地域と生徒ボランティア20名による「すいとん」の炊き出し(生徒による災害ボランティア・プチ体験)を行いました。



地域の方々からは、「中学生はこんなにしっかりとできるのですね」「災害のときに中学生ができることはたくさんあるね」など、たくさんのお褒めの言葉をもらいました。



地域の方々からは、「中学生はこんなにしっかりとできるのですね」「災害のときに中学生ができることはたくさんあるね」など、たくさんのお褒めの言葉をもらいました。



※1年間の取組みについては、2023年3月に発行する「教育実践総合センター年報」で報告する予定です。ぜひ、2022の報告書をご覧ください。